



清流news

〒191-8686 東京都日野市神明1-12-1

Tel 042-514-8309

発行月 1月・7月

Vol.134

発行
日野市
環境共生部
緑と清流課

多摩川・浅川クリーン作戦を実施しました

令和6年4月20日



参加団体(組)		48
参加人数(人)		1,597
収集量(kg)	可燃	290
	不燃	470
	粗大	280

令和6年4月20日(土)、緑と清流課主催多摩川・浅川クリーン作戦を実施しました。クリーン作戦は、多くの市民の方の参加を募り、行政と協力して一級河川の清掃活動をおこなう大規模なイベントです。晴天にも恵まれ、クリーン作戦日和となった今年は1500人以上の方に参加いただき、多摩川並びに浅川の環境美化にご協力いただきました。また、今回は新型コロナウイルス拡大防止対策のため中止していた開会式を4年ぶりに開催しました。開会式では日野市長並びに京浜河川事務所長より挨拶をいただきました。日野市の一級河川を保全するためには、清掃活動による環境美化は必要不可欠です。来年度も多摩川・浅川クリーン作戦を実施したいと考えておりますので、その際はご参加宜しくお願い致します。

当日、ご協力いただいた参加人数及び収集されたごみの内訳は次のとおりです。

連携事業

八王子市・日野市流域連携共同提言

(自然) みんなで浅川の自然や景観を大切にして、未来につなげます
(人) 人と人のふれあいの輪を広げ、ふるさとの浅川を育てます
(まち) 浅川の魅力を活かして、元気なまちをつくります

第13回 あさかわ写真コンクール ～しぜん・ひと・まち～



『あさかわ写真コンクール』は、八王子市と日野市との中央部を貫く浅川に、良好な流域の水辺環境を創出し、心豊かなまちづくりを目指すため、両市の連携事業として行っています。

皆様に支えられ、今年の開催で13回目を迎えることができました。四季折々の浅川の姿を切り取った写真が応募され、毎年新たな浅川の魅力を発見できます。皆様からの浅川の魅力あふれる写真をお待ちしております。

募集要項は以下のとおりです。

実施概要

募集期間 2024年6月15日(土)～2024年8月15日(木)(必着)

対象範囲 浅川・南浅川

- 応募条件**
- ・電子データでの提出。※プリントした写真での応募はできません。
 - ・自分で撮影した作品であること。
 - ・未発表及び他に応募していない作品であること。
 - ・組写真でないこと。
 - ・極端な補正、合成等の加工を行わないこと。
 - ・撮影のため環境に人為的な加工をするなど、生きものや環境にダメージを与えないこと。
 - ・カラー、モノクロの区分はありません。
 - ・スマートフォンで撮影したものも応募可能です。



第13回あさかわ写真コンクール ポスター

部門 中学生以下の部、一般の部 **応募点数** 一人5点まで

応募方法 必要事項を明記してご応募ください。

【応募方法1】応募フォームで応募

写真データ名を「作者氏名・作品名」に変更して、
右の二次元コードまたはURLより必要事項を入力の上、応募ください。

【応募方法2】CD-R等で応募

写真データの入ったCD-R等に、必要事項を
記載したファイル等を添付して、
応募先までお送りください(持ち込みも可)。
※クラウドサービス等の利用による提出は不可

応募先 191-8686 日野市神明1丁目12番地の1
日野市緑と清流課 あさかわ写真コンクール担当 宛
メールアドレス seiryu@city.hino.lg.jp

詳細な募集要項は、市のホームページで入手できます。
その他、詳細は緑と清流課までお問い合わせください。

応募フォーム

URL:
<https://logoform.jp/form/Z9UK/562821>



▲申し込みはこちら

〈必要事項〉

- ①部門 ②題名(ふりがな) ③氏名(ふりがな)
 - ④連絡先(住所、電話番号、メールアドレス)
 - ⑤年齢 ⑥撮影時期・場所
 - ⑦作品への思い
 - ⑧コンクールを知ったきっかけ
- ※学生の方は学校名、学年も合わせてご記載ください。

浅川流域

日野市と八王子市を流れる「浅川」を流域単位としてとらえ、治水、利水、水質、水辺の保全、活用をキーワードとして連携を図ることで良好な流域の水辺環境を創出し、心豊かな流域のまちづくりを目指すことを目的としています。

事業初年度の平成23年11月6日に、八王子市学園都市センターで「浅川流域『川の恵み』シンポジウム」を開催し、当時の日野市長、八王子市長、両市の子どもたちにより「八王子市・日野市流域連携共同提言」が出されました。

浅川の清流で遊ぼう



自然の中で、川は楽しい遊び場・学習の場です。生きものの観察・水遊びなど、たくさんの楽しい活動ができます。

けれど、川には見えない危険がひそんでいます。八王子市・川崎市の子どもたちとルールを守って、安全に水遊びを楽しみながら、私たちの暮らしと水の関わりや生きもののつながり、身近な水環境の大切さを学んでみましょう。

実施概要

- 対象** 市内在住の小学4・5・6年生
- 日時** 8月6日(火) 午前8時30分～午後4時頃
船森公園(京王八王子駅周辺) 集合・解散
- 会場** タヤけ小やけふれあいの里(八王子市上恩方町) 貸切バスで移動します
- 定員** 10名(抽選)
- 費用** 無料
- 申込** 期限: 7月12日(金)
方法: 右の二次元コードまたはURLより申込をお願いします。

注意事項 天候や川の状況により内容が変更になる場合があります。
詳細は市のホームページでご確認ください。



応募フォーム

URL:
<https://logoform.jp/form/Z9UK/542771>



▲申し込みはこちら

〈イベントの様子〉



問い合わせ先

日野市 緑と清流課

(TEL 042-514-8309 FAX042-581-2516 E-mail seiryu@city.hino.lg.jp)



ナラ枯れの流行と自然環境の変化



ナラ枯れが広がる丘陵

近年多摩地域の各地で、コナラやクヌギなどの樹木が枯れてしまう「ナラ枯れ」という病気が流行しています。葉っぱが茶色くなり立ち枯れてしまふ病気で、丘陵の尾根筋に点々と茶色く立ち枯れた樹木が目立つ様子を、気にされている方も多いと思います。

○原因は「農業をする虫」

ナラ枯れは、カシノナガキクイムシ(略してカシナガ)という体長5mm程の小さな虫と「ナラ菌」というカビの仲間が引き起こす樹木の伝染病で、コナラやクヌギなどのドングリの木の仲間が感染します。

カシナガは強いアゴを使って木の中にトンネルを掘り、そこに体に蓄えていた共生菌を植え付けます。カシナガの幼虫はこの菌を食べて成長するため、カシナガは食べ物となる菌を栽培する「農業をする虫」と言えるでしょう。この時に一緒に運ばれたナラ菌が木に感染してしまふと、木の中の水を吸いあげる管が詰ま



カシナガとナラ枯れ被害木(大量の木くずが散乱)

り、葉っぱが茶色く縮れた「ナラ枯れ」が発生することになります。そして成虫になったカシナガが他の木へと飛び立つことで、病気を伝染させてしまふのです。

○多摩地域で大流行

ナラ枯れは元々北日本や西日本で流行していましたが、2019年ごろから多摩地域でも確認され始め、年々被害が拡大していきました。市内でも私が大まかに数えたところ、20年123本、21年522本、22年507本、23年144本の被害を確認しました(未調査の場所もあるので実際にはこの2〜3倍の被害)。特にコナラやクヌギが多い雑木林での被害が甚大ですが、23年には本数が減少したこと、流行のピークは過ぎつつある可能性があるります。梅雨が明けたこれらがナラ枯れの発生シーズンのため、注視する必要があります。

○ナラ枯れによる影響

ナラ枯れが流行すると、雑木林の環境はどう変化するで



カシナガの天敵 ルイスホソカタムシ

でしょうか？一つは大きな木が枯れることで林の中が明るくなり、林の中の植生(植物の種類や数)が変化することです。明るくなることで一時的にはキンランやギンランなどの植物が増えるかもしれませんが、ササや低木が繁茂しヤブになつてしまふ可能性もあります。それにより、その場所にも暮らす鳥や昆虫などの動物の種類も変化するでしょう。例えば、カシナガを食べる天敵の虫が増える、枯れ木を好むカミキリムシが大発生する、被害木から出た樹液を目当てにスズメバチが群がるといった事例がすでに確認されています。また、自然だけでなく

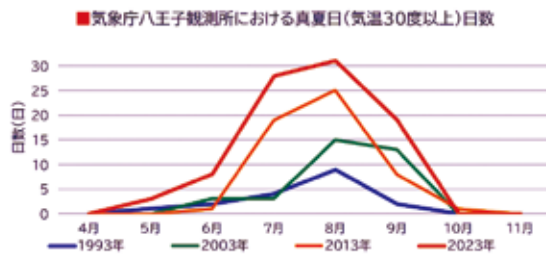
私たち人間に対する影響も大きいです。一番怖いのは、枯れ木や弱った木による倒木や落枝の被害です。危険木の増加によって公園や緑地の利用が制限されることもあります。特に強風や大雨・大雪の際は、十分にご注意ください。

○大きな木ほど枯れやすい

ナラ枯れ流行の原因は諸説ありますが、雑木林の利用の変化というのが大きな要因と考えられます。かつては燃料として定期的に伐採・更新されていたため若く細い木が多かったですが、現在では放置されカシナガが好む大きな木ばかりとなつていきます。ナラ枯れの流行は、人間が行っていた雑木林の更新を自然が強制的に行っているとも捉えられるかもしれませんが。人間の生活様式の変化は、自然界にも大きな影響を与えています。身近な自然である雑木林の変化を、皆さまも気にかけてみてください。

文・写真 日野の自然を守る会

片山 敦



※気象庁八王子観測所における気象データをもとに、日野市が作成

この温暖化による影響を最小限に抑えるため、カーボンニュートラルの達成が世界的な目標になっています。

二酸化炭素などの温室効果ガスの影響により、地球の平均気温はこの100年余りで急激に上昇しました。温暖化による影響は海面上昇や異常気象、森林火災等として現れ、更に過去に例を見ない昨年の猛暑など、地球温暖化は私たち日野市民の暮らしに大きな影響を及ぼしています。

気候変動への取り組み 市民に求められる役割



第3回日野市気候市民会議

地域におけるカーボンニュートラルの達成には、市民・事業者・行政など全ての主体がこの問題を「自分ごと」として捉え、それぞれができる対策を行うことが求められます。

欧州では、社会の縮図としてランダムに選ばれた人が、課題に関する各テーマの情報提供を受けて議論するミニ・パブリックスという手法を用いて、「気候市民会議」が開催されています。

日野市でもこの手法を用いて選ばれた日野市民約40人に参加いただき、日野市気候市民会議を開催しました。



日野市気候市民会議政策提言提出セレモニー

気候市民会議の結果は、政策提言書として取りまとめられ、2024年2月10日に開催された日野市環境フェアにおいて、会議参加者から大坪市長へ手渡されました。この提言書の内容を踏まえ、日野市は「カーボンニュートラルシティHINO」の実現に向けて、取り組みを進めていきます。特に、行政向けにいただいた提言は、そのすべてに対して日野市として実施可否を判断し、その理由を公表する予定です。

カーボンニュートラルシティHINOを実現するための前提となる考え方

- ①環境問題を教育や家庭、政治、行政で取り上げる
- ②現時点で取り組めることを洗い出し、すぐにでも実行に移す
- ③社会と意識の「大転換」を起こす
- ④提言書に書かれた取り組みの進み具合を評価する

カーボンニュートラルシティHINOを実現するための取り組み(一部)

環境に配慮した素材、環境に配慮した方法でつくられたモノを選択する

時間指定や置き配、宅配ロッカーを活用し、再配達にならないようにする

自宅の電力を再生可能エネルギー由来の電力の契約に切り替える

日野市気候市民会議の提言の中では、右の表に記した4つの考え方が示されています。また、これらの考え方に沿って取り組みを進めるためには、環境問題を社会に浸透させ、協力し合いながら問題に取り組む必要があります。市民一人ひとりには、「環境問題について正しい知識、意識を持つ、変化に対応するように努力する」などの役割が求められています。

農作物の生育に影響が出る。台風が強大化し、大雨の日数が増える。

気候市民会議の考え方や取り組み、提言書についての詳細は、日野市ホームページをご覧ください。



気候市民会議についてはこちら



● 沢田公園(街区公園107)

所在地：平山四丁目14番

面積：1,999㎡

開園日：昭和60年9月2日

このあたり一帯が水田だった頃、京王線を挟んだ南北の地域を小字名で沢田と呼んでいました。この公園の西の一部も之の小字名で呼ばれていました。

● 下耕地公園(街区公園108)

所在地：平山四丁目24番5

面積：1,798㎡

開園日：昭和60年9月2日

この公園の地は、平山の東部に広がる水田地帯の一部でした。公園から南の小字名を下耕地と呼び、公園名はこれからとりました。

上耕地は、平山橋左岸(北岸)の向耕地(現在の平山団地)を指します。

このあたりでは川の上流(西)を上と呼び、下流(東)を下と呼ぶ風があり、村から見てこのように呼びました。



(C)2017 PASCO CORPORATION.

(C)2017 INCREMENT P CORPORATION.

いかなる形式においても著作権者に無断でこの地図の全部または一部を複製し、利用することを固く禁じます。



用水守募集

日野市緑と清流課では、「用水守」として市内の用水路の清掃活動をおこなって下さる方を随時募集しています。

かつて東京穀倉地帯と呼ばれた日野市には、江戸時代に多摩川・浅川からひかれた農業用水路が今も市内を網の目のように流れています。これら水路の総延長は116キロにも及ぶといわれています。また、市内には数多くの湧水が湧いているなどたいへん水環境に恵まれています。

日野市では、こうした恵まれた水環境を次世代に伝えるため、清掃・維持作業など様々な活動を行っています。一方で、市民の皆さまの水への関心も非常に高く、多くの方が身の回りの水辺を自ら清掃・維持してくださっています。

このような、ボランティアで水辺維持の活動をされている皆さまを少しでも支えることができると生まれたのが「日野市用水守制度」です。「用水守制度」は日ごろ活動をする範囲を決め、あらかじめ「用水守」として登録いただくことで、万一の事故に備えた、市民総合賠償補償保険の対象者となります。

市では、今後も市と市民の皆さまで協力して良好な水辺の環境を維持管理・保全をしていきたいと考えております。

現在、250名以上の方が、用水守として活動しております。登録は、個人・グループ・自治会・企業など多くの方を対象としています。ぜひ、皆さまのご参加をお待ちしております。

市では、「日野市みんなでま
ちをきれいにする条例」に基
づき、毎年5月(春)と11月
(秋)の最終日曜日を「市内を
みんなできれいにする日」と
しています。

市内一斉清掃は自治会、学
生ボランティア等、様々な団
体の方々にご協力をいただ
き、実施しています。

当日は朝早くから、自分た
ちのまちをきれいにするた
め、協力しながら清掃活動
を行っていただきました。また、
きれいなまちを維持しよう
と、積極的に清掃を行って
いただきました。多くの方に
ご参加いただき、誠にありが
うございます。

春の市内一斉清掃



令和6年度 春の一斉清掃

参加団体(組)		319
参加人数(人)		18,360
収拾量(kg)	可燃	26,520
	不燃	390

この清掃活動を通じて、環
境に対する意識向上と、皆さ
んの交流を深め、地域のつな
がりを強めるきっかけ作りと
して頂ければ幸いです。

今後も、市内の良好な環境
保全にご協力をお願いしま
す。



次回は、令和6年11月24日
(日)に秋の市内一斉清掃を予
定しています。

【環境政策課】

38 南平用水・谷戸川 — 絵図に描かれた用水



水辺のある風景 日野50選 選ばれた水辺を紹介します



高台の寿徳寺下を流れる用
水は沢の水を集めながら浅川
に流れ落ちます。その地形に
従う水の線形は平村絵図(天
保14年)とあまり変わりませ
ん。玉石積の擁壁や民家、大
木となった庭木、丘陵の起伏
や緑、沢水、道野辺の地蔵など
が絡み、かつての集落を偲ば
せる雰囲気のある場所です。

丘陵を背後に抱える平山、
南平は沢水の恩恵を受けてき
ました。それは水田を潤す大



切な水源でもありました。沢
水が用水に流れ込む場所を
“樋口”^{とよぐち}と呼び、旧道と交差
する沢水には橋が架けられそ
の坂下橋の近くの屋号は“は
け” “台坂” など地形に因ん

43 新井の微高地を 流れる用水

浅川や程久保川の堤防が整
備されるはるか昔から、周辺
より少し高いところにある集
落の農家です。塀に沿う向島
用水の支線の流れを見ると、
高低差を実感できます。用水
路には田へ分水する堰もあり、
よく手入れされています。

周辺には田畑がまとまって
残っており、宅地の中のオアシ
スです。



だ家があります。かつて南平
には8つほどの谷戸川があり
ましたが今は道路になってい
ます。

令和6年度 日野市合同水防訓練を実施しました

令和6年5月25日(土)、日野市多摩川グラウンドにて、防災安全課が主体となり、消防署との合同水防訓練を実施しました。訓練には、日野消防署や日野市消防団をはじめとする多くの関係機関にご参加いただきました。



市長・消防署長・消防団長による訓練開始報告の様子

訓練内容は、シナリオに沿って進行し、風水害を想定した救出・救助演習と、水防工法の作成を行いました。

【訓練シナリオについて】

日野市では警戒レベル4の「避難指示」が発令されたところから始まります。市道路課のパトロール車が市内を巡回

中に、土砂災害によって倒壊している家を発見し、市の災害対策本部へ通報、後に消防署へ伝達され、消防署(水防指揮隊)と消防団が出動し、中に取り残されている住民を救助するという流れでした。



救出・救助訓練の様子

倒壊家屋の救助活動が続く中、市道路課のパトロール車は次に、多摩川の越水危険箇所を発見します。多摩川からの越水を防ぐため、市職員や消防署、消防団が協力し、水防工法の作成訓練を行いました。また、水防工法訓練には、市内の複数事業所で組織された災害対策協力会や地域の防災会等、市民の方々にもご参加いただきました。

【水防工法とは】

水防工法とは、様々な方法がありますが、主に土嚢を積み、水の流れを防ぐことを目的としています。

今回、訓練の中では7種類を作成したのでご紹介します。

- ①最も基本的な積み方である積み土嚢工法
- ②積み土嚢工法に防水シートを活用した改良積み土嚢工法
- ③鋼板を並べ、土砂と支柱で強固な防水柵とする鋼板防護工法
- ④折り畳み式の水嚢に水を流して作る連結水嚢工法
- ⑤水流による護岸の破損を防ぐシート張り工法
- ⑥堤防の裏側に穴が開いて漏水した際に、決壊を防ぐために作成する月の輪工法
- ⑦水圧を利用し、マンホールの噴出を抑えるマンホール噴出防止工法



【終わりに】

日野市には多摩川・浅川という2つの大きな一級河川が横断しており、平時には清涼感のある風景を創出しています。しかし、ひとたび台風等が発生すると、浸水被害や土砂災害等が起こる危険性が潜んでいます。これらの災害が起こる前に、備蓄品の準備や避難所の確認など、日頃からの備えを心掛け、有事の際には落ち着いた行動が取れるようにしましょう。



水防工法作成の様子



水防工法(土嚢作成)の様子

日野市防災安全課

あとがき

7月を迎え、早いもので2024年も折り返しとなりました。今年は2月〜5月にかけて気温の安定しない日々が続いていました。日本気象協会の発表によると、東京都の桜の満開は例年よりも遅い4月4日となっております。体調管理の難しさに悩まされる日々だったかと思いますが、満開の桜が新入生や新社会人の門出を祝う良き日であったと思います。今年の夏も猛暑が予想されていますが、こまめな水分補給や熱中症対策に力を入れていただき、ご愛ください。

さて、日野市でも様々なイベントが開催する予定です。その中でも10月には小中学生が夏休みに描いてくれた緑と清流ポスターと用水路に生息している魚を採取してミニ水族館を展示する予定です。日野市役所本庁舎にて展示する予定です。ぜひお立ち寄りください。今後とも清流ニュースをご愛読いただきますよう、よろしく願います。